

大 利 根 だ よ り

発 行／社会福祉法人 大泉旭出学園 大 利 根 旭 出 福 祉 園
〒289-0323 千葉県香取市岡飯田792-1 TEL : 0478(83)1220 FAX : 0478(83)1123
ホームページアドレス <https://asahide-otone.jp/>



能登半島地震で被災された皆さまならびにご家族の皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

さて、当法人は今年で設立50周年を迎えます。これまで当法人の運営にあたってこられた方々に敬意を表するとともにこれからを担う私たち職員の責任の重さを感じるところです。そこで当法人の設立の経緯についてご紹介させていただきます。

法人設立の経緯

本年は、社会福祉法人大泉旭出学園が事業を開始してから50周年となります。

社会福祉法人の認可を得て、事業を開始したのは1974（昭和49）年のことです。当初の事業は、授産施設として開設した「旭出生産福祉園（通所定員60名）」のみでした。

当法人の設立経緯は、隣接する特別支援学校の生徒の卒業後をどうするかということから始まったわけですが、その概略は以下のようなこととなります。

障害児のための学校教育の場がまだ整っていないかった戦後間もない1950（昭和25）年に、知的発達に遅れのあるわが子に何とか適切な教育を受けさせたいという母親の願いが発端となって、東京目白の徳川邸の一隅に誕生した全く私的な園児14名の小さな学園が、学校

法人旭出学園となって正式な学校である旭出養護学校（現在の特別支援学校）を開校しました。その学校が、小学部・中学部・高等部を構成する規模となり、高等部の卒業生が出るようになったのですが、その卒業生たちが就職して社会で生活していくというのはなかなか厳しい状況でした。

そこで「卒業」にはこだわらずにやっいていこうと考え、高等部卒業後も卒業生はみなその保護者の協力を得ることを条件にそのまま学校内の作業実習場に就職して働くという名目で学校に残っていられるようにし、その卒業生のグループを生産部と呼ぶことにしました。

しかし毎年4、5名の卒業生が加わり、生産部所属の人員が増え、いつまでもそのままというわけにもいかないのが、高等部卒業生の「働く場」「生活の場」となるような施設をつくらうということになり、資金的工面をし、社会福祉法人が運営する施設の創設を計画しました。それが1972（昭和47）年の富士旭出学園の創設であり、1974（昭和49）年の大泉旭出学園の創設です。静岡と東京に創設したのは、卒業生の健康状態や情緒的な安定性などの面を考慮した場合、生活の場が都会的な環境のなかでもよいと思われるケースと農山村的な環境のなかで農耕や園芸、牧畜や窯業などがよいと思われるケースがあることから、それぞれの環境のなかに施設をつくるのが理想になったからです。

園児14名だけの私的な小さな学園が、学校法人旭出学園・社会福祉法人富士旭出学園・社会福祉法人大泉旭出学園

という三つの法人組織となり、教育の事業から福祉の事業へと進展し現在に至っているというところに旭出学園が歩んできたことのきわめて大きな意味があるという理解が大切だと思います。

これまでの歩みが意味するもの

学校法人旭出学園の特別支援学校と社会福祉法人の富士旭出学園と大泉旭出学園の福祉施設等は、法規的にはそれぞれ設立主体が学校法人と社会福祉法人というように異なるわけで、教育と福祉の事業を行う別々の組織ということになります。その源は一つであり、旭出グループとして現在に至っています。

旭出学園創設者の三木安正先生の教育と福祉の考え方は、「教育と福祉は違った領域の仕事のように考える人がいると思うが、「福祉」というのは目標であって、「教育」というのはそれを達成する手段であると考えたほうがよいと思う」というものでした。それが旭出グループを構成する土台になっているといつてよいと思います。

社会福祉法人大泉旭出学園50周年「法人設立の経緯とこれまでの歩みを考える」浅井 浩 令和6年1月 抜粋

改めて旭出学園の成り立ちを振り返るとともに、障害福祉サービスが充実し、事業所を利用する利用者の方々の障害が多様化する中で直面する課題も多くありますが目先のことにばかり捉われずに三木先生の考えや法人の理念、すなわち旭出学園の原点に立ち返りながら利用者の方々の生活がよりよいものとなるような支援に努めていきたいと思えます。

生活の様子

10月からの園内での皆さんの様子です



ハロウィン

いちご栽培



節分



じゃがいも掘り



お正月



お楽しみ会

バスハイク

10月に旅行会の代替えとしてバスハイクを行いました。

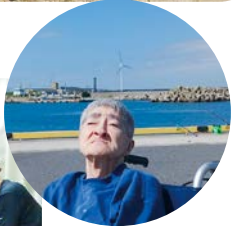
ドライブやホテルのお弁当を食べたり、ひもくじ等の景品を用意したレクを行い、みなさんとても喜ばれていました。

今回は感染症流行に伴い、通常通り開催できませんでしたが、今後も園内でも楽しめる企画を提案していけたらと思います。



くじひき

コレにする!



通所の活動

クリスマスパネル作り



通所の活動の中で、4月からクリスマスに向けてみんなで協力して大きな貼り絵に取り組んできました!! どの部分かな? どの色がいいかな? と話し合いながら行ってきました。12月に入り、クリスマスまでのカウントダウンが始まると、もう少しだから頑張ろうね〜と声を掛け合いながら、なんとかクリスマス前に完成し、掲示することができました。全員が達成感でいっぱいでした☆ この作品を見て、たくさんの方が笑顔になりますように(^^)♪



クリスマス会



Merry Christmas!!



まあ



12月22日にクリスマス会を行いました。数年ぶりに入所、通所合同で開催することができ、ハンドベルやパネルシアター、スライドショーなど利用者さんの皆さんと楽しい時間を過ごすことができました。昼食のお弁当もクリスマスカラーで彩りも良く、チキンライスやエビフライ、グラタンなど皆さんおいしそうに召し上がっていました。クリスマスプレゼントも自分が欲しかった物をもらうことができ皆さん笑顔。またみんな一緒に来年もできればいいですね。



1月19日に新年会を行いました。手作りの旭出神社に参拝し、絵馬に新年の抱負や願いを皆さんで書き、自作のおみくじで運試しを行いました。

昼食のお弁当では、ウナギやエビ、フルーツなどの豪華な食事をお腹いっぱい食べて、皆さんとても喜んでいました。

歳末助け合い募金活動(大掃除)



香取市社会福祉協議会「歳末たすけあい募金運動社会福祉施設への助成金事業」を活用させていただき恒例となった園内大そうじを行いました。

当日は冬晴れ、ボランティアさんと一緒に窓そうじを行いながら交流を図ることができました。綺麗になった窓からの風景を見ながら、気持ちよく新年を迎えることができました。



善意銀行様より寄贈

善意銀行様のご厚意により、洗濯機2台を寄贈していただきました。大切に使用させていただきます。



編集後記

新年を迎えました。歳を重ねるほどに日々の流れが速く感じます。今年も早々にインフルエンザにかかってしまいましたが、利用者さん共々、元気に過ごしていきたいと思ひます。



今年も
お元気に
過ごしたい

ココアのみ
えを
かいて
いる
おとうさん

わか
おかみ
そと
でせん
たく
てが
あかい

サラ
リー
マン
かけ
そば
たべ
て
いそ
ぎあ
し

八田
さん
の
五・七・五

